

歩いて楽しい道路空間創出について 【ウォーカブルなまちづくり】

1 ウォーカブルなまちづくり

都市の魅力向上を図るため、車中心から人中心の「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を推進

1) 居心地が良く歩きたくなるまちなか

- ・歩きやすい歩道づくりだけではなく「歩きたい、滞留したい」と思う快適な空間
- ・道路・公園・民間空地・沿道建物が一体的にまちに開かれた空間形成を図る
- ・まちの価値や魅力を高め、さらに多様な人を呼び寄せるという好循環を生む

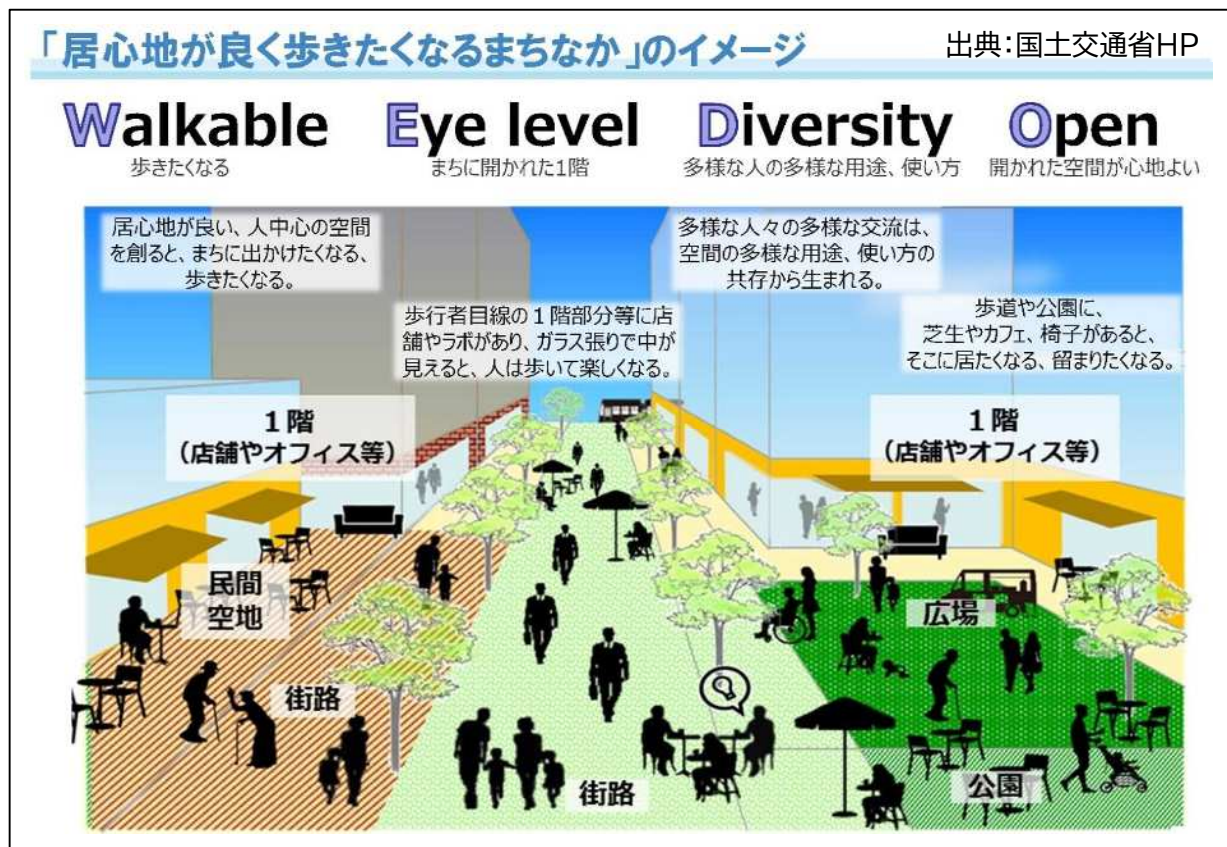
2) 北九州市基本構想・基本計画での位置付け

- ・「彩りあるまち」の実現に向け、ウォーカブルなまちづくりを官民連携で推進
- ・民間投資を喚起しながら、魅力的な街並みや生活環境など「彩りある空間」を整備

3) ウォーカブル推進都市

- ・国土交通省が進めるウォーカブルの考え方に共鳴し、ともに取り組みを進める都市
- ・北九州市は令和元年8月に「ウォーカブル推進都市」に参加

※全国 372 都市が参加(令和6年4月 30 日現在)



2 これまでの取組

1) 国家戦略道路占用事業【平成 28 年 4 月～】

- ・ 国家戦略特区による道路占用の特例措置を活用（道路空間の活用）
- ・ 歩行者が通行できる幅員を確保したうえで、オープンカフェやマルシェを実施
実施個所：小倉（2カ所）、門司港（2カ所）、八幡（1カ所）、黒崎（2カ所）



2) 船場広場【令和元年 7 月オープン】

- ・ 旧小倉ホテル跡地を活用し、新たなにぎわいと憩いの空間を目的に広場を整備
- ・ 民間の創意工夫を活かした持続可能な運営管理



3) 八幡東区東田での社会実験

官民連携による公共空間の多様な活用を検討するため、東田大通公園周辺において社会実験を実施。

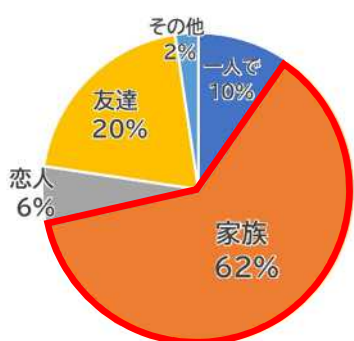
【実施期間】 令和6年3月2日（土）～10日（日）の連続9日間

- 【実施内容】
- ・子どもが楽しく学べる科学のワークショップ
 - ・家族で楽しめるチョークアートなどの外遊び
 - ・キッチンカーや物販などの出店
 - ・道路の歩行者天国化（市道の交通規制）

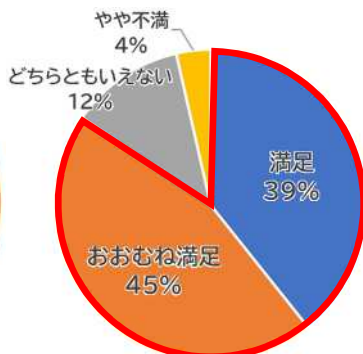
- 【結果】
- ・家族連れの来場が多い（特に土日）
 - ・キッチンカーなどの飲食が高評価
 - ・テーブルや椅子などのくつろぐスペースが高評価
 - ・子ども向けの遊び場やイベントを求める声が多数

・公共空間の多様な使い方に対するニーズは高い
 ・居心地のよい時間を過ごすための、多様な活用を後押しする仕組みが必要

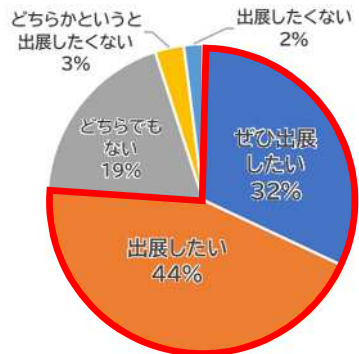
東田オープンパークWEEK



来訪者の6割以上が家族連れ



来訪者の8割以上がイベントに満足



出展者の7割以上が今後も出展を希望

4) 折尾駅北口駅前広場【令和5年4月供用開始】

- ・交通結節機能の強化
- ・イベントを通じたまちの活性化、学生や近隣住民が憩える場の提供



3 今後の取組 ～「豊かで居心地のよいまちづくり」事業～

エリアの価値を高める居心地のよい都市空間を創出するため、小倉・黒崎を中心に、官民連携での社会実験を行いながら、高質で賑わいのある都市デザインを策定するとともに、新たな民間開発の誘導策についても検討する。

【令和6年度の取組】

1) ウォカブル空間の創出に向けた基礎調査

- ・歩行者の行動調査
- ・車両、交通流調査
- ・沿道施設、道路空間の環境調査

2) 社会実験

- ・小倉：小倉城・リバーウォーク周辺で実施
快適な滞在空間の創出、観光客の滞在時間延伸の仕掛けづくり
- ・黒崎：商店街の道路と隣接する民間未利用地で実施
子供の遊び場や住民の憩いの空間を創出

3) 都市デザイン

上記の基礎調査や社会実験の検証を踏まえ、民間事業者が投資したくなるウォカブルな都市デザインを官民連携で検討